

第 1 4 期足立区社会教育委員会議第 8 回定例会会議録

会 議 名	第 1 4 期足立区社会教育委員会議第 8 回定例会会議録
開 催 年 月 日	平成 2 8 年 3 月 2 2 日(火)
開 催 場 所	足立区役所本庁舎 南館 6 階 教育委員会室
開 催 時 間	午前 1 0 時開会～午後 1 2 時閉会
出 欠 状 況	委員現在数 3 名 出席委員数 2 名 欠席委員数 1 名
出 席 者	千葉敬愛短期大学学長 明石 要一 氏 日本体育大学名誉教授 成田 國英 氏
事 務 局	足立区教育委員会教育長 定野 司 足立区教育委員会子ども家庭部長 伊藤 良久 教育委員会事務局 子ども家庭部 青少年課 管理調整係 出席職員 青少年課長 寺島 光大 青少年課管理調整係長 広瀬 弘紀 青少年課青少年教育担当係長 村上 長彦 青少年課青少年教育担当主査 福井 京子 青少年課管理調整係主事 渡辺 菜摘
会 議 次 第	別紙のとおり
会 議 に 付 し た 議 題	1 足立区教育大綱について 2 平成 2 7 年度の取り組みについて (1) これまでの意見・提案などの再確認、成果まとめ (2) 平成 2 8 年度の協議テーマ、進め方 (3) 教育振興計画への活かし方 3 今後のスケジュールについて 4 その他

★定刻午前10時00分★・会議開会

司会:事務局寺島課長

ただいまより、第14期の足立区社会教育委員会会議の第8回目の定例会を開催させていただきます。よろしくお願いいたします。初めに教育長からご挨拶を申し上げます。

定野教育長

先月2月8日に教育大綱を策定いたしました。後ほどご説明差し上げたいと思います。

先ほど、会議前に宇宙めだかの話がありましたが、この委員会も子供たちに夢を与えるような議論ができれば良いと思っております。本日もよろしくお願いいたします。

司会:事務局寺島課長

続きまして、明石議長ご挨拶をお願いいたします。

明石議長

お久しぶりです。3月18日に千葉の中学校の卒業式があり参加いたしました。生徒の返事はよかったです。「はい」と返事をして、1割くらいの生徒がみんなに向かって、「先生3年間ありがとうございました」と言っていました。これは分かりますが、その半数は、「お父さんお母さん3年間ありがとうございました」、ある女子中学生は、「〇〇ちゃん3年間助けてくれてありがとう」と言っていました。

要するに学校教育は、社会人としての義務教育を卒業した後にどのようにしつけをして行くのかであると思います。儀式ですから、両親や友人についてはプライベートです。今の先生方は、儀式的な行事についてどのように指導をされているのかと思います。

よく社会規範の崩れと言いますが、例えばゴルフの石川遼選手は、非常にスピーチが上手です。それはお父さんが小学校から鍛えてきたようです。石川選手でもメディアの前では、「私のお父さん」と言ってしまいます。「私の父は」と言わなければならないことを誰かが指摘してあげればと思います。

それはかつての世間教育です。今後は学校と社会教育が連携して、「お父さん、お母さん」という言葉を、ここでは「父、母」と、教えていくことが社会教育と学校教育の連携では大事になっていくことと感じました。以上です。

司会:事務局寺島課長

ありがとうございました。それでは、お手元の資料を確認させていただきます。

まず、本日の次第がございます。第14期社会教育委員による主な意見・提案です。それに教育大綱がございます。

本日、半年期間があいたこともあり、事前にご議論いただいた内容をお送りさせていただいております。また、議事進行は、明石議長に進めていただくところですが、本日は事

務局で進めさせていただきます。それでは、この後の進行は村上係長にお願いいたします。よろしく申し上げます。

村上青少年教育担当係長

では、最初に教育大綱に関して教育長から説明をお願いいたします。

定野教育長

明石先生から中学校の話がありましたが、実は、昨日ある大学の卒業式に行ってきました。感じたのは、卒業証書授与から泣いている学生がいたことに驚きました。卒業証書授与の後の送辞と答辞を読んでいる時が多かったです。私たちが人前で泣くときは、こらえて最後に泣いてしまう。これは仕方ありません。また、卒業式に大勢の保護者が参加していました。私も親バカですので自分の娘の卒業式に行きましたが、保護者が多かったのには少し驚きました。

成人式を見ても思いますが、何が言いたいのかというと、社会性を身につけていかなければならないことについて明石先生からお話がありましたが、それをきっちりやっつけていかなければいけないと卒業式に出席して感じました。

4月には、今年も約150人の新卒者が先生として各学校に配属されます。その前で、私は何を話そうかと考えており資料も作ったのですが、まずは「教師である前に社会人であれ」と、これは言わないといけないと思っています。明石先生のお話も、先生がどのような教育をしていたのか、先生自身がそのような教育を受けていないのかもしれませんが、ただ、教えるのではなくて、実は肌で感じ、後ろ姿や前姿で教えなければならない、それが恐らく身につけていないのかもしれませんが。

これは大変なことと今お話を伺って感じたので、大綱の話より運営の話になってしまいました。我々はその辺からやらなければならないと、ますます社会教育の重要性、学校だけでは足りない何かを、地域やそのほかの方々と一緒にやっつけていかなければならないと思っています。

続いて、表紙の夢の字は、在学の小、中、高、特別支援学校の児童・生徒、1853名から公募しました。これはすごいことだと思います。実は原稿の時はなかったのですが、あえて入れてもらいました。この1853名の方々がこの夢という字を書いた、その気持ちを大事にしてあげたいと思います。

これは特別支援学校の2年生が書いた字ですが、とても上手です。大綱は、教育そのものが夢や希望を信じて生き抜く人づくりという理念のもと3期に分かれています。

乳幼児期は、人間形成の基礎を養う。出会いや関わりを通じて、たくましく成長するための素地をつくる。6歳からの青少年期は、小、中、高になりますが、ここではともに歩み磨き合いながら、自身の道を切り拓く力を培う。そして成人期には、自ら学ぶとともに、その経験を社会に還元する意欲を育てる。ここの成人期がポイントで、これもどちらかといえば生涯教育という自分を楽しければ良いという話で終わってしまうのではなく、乳幼児期や青少年期の子供や青年に返していく。これが明石先生のおっしゃった社会性を身につけることと思います。いろいろな大人が関わり、親や先生に足りないところを地域の

方々が支えていく、誰もが先生である、生徒であるということもありますが、誰もが師であるという思いを込めて、教え・支え・見守りという矢印がぐるぐると回転するのが基本理念、足立区教育大綱の柱の一つです。

もう一つが、この下にある子供の貧困対策についてです。教育大綱の中に子供の貧困対策について書いてある大綱は初めてと思うのですが、最後のページには、1の「誰もが子供を支える主役」は、サイクルができるという話とともに、貧困の連鎖を断ち切る教育についてです。

特に足立区は治安や学力、健康についての課題が多く、今その対策を打っていますが、そのベースには貧困ということを前面に出し、貧困をどう断ち切るかを考えなければいけません。お金を出せばと考える方もいますが、実はそれでは断ち切れないと思っています。お金は、使ってしまうえばそれで終わりです。何に使うのかが問題であり、貧困を断ち切るための役割をつくるのが教育であるとの柱建てとしました。

自分の将来の夢や希望を見出せない厳しい環境にある子供たちを孤立させないような支援、教育、これが大切だと考えています。大綱の説明は終わりになりますが、これをいつまでに達成するという期間はありません。これをもとに、基本構想も現在まとめを作っており、基本計画、それからこの下には教育振興計画を今後作ることにしますので、これに反映させていきたいと考えております。

先週の日曜日に、豊洲にあるキッズニアに行って来ました。90種類もの職業体験ができ、エンターテイメント性が非常に高く職業のディズニーランドみたいなところでした。そこで働くとお金がもらえたり、いろいろなものが買えたり多くの体験ができます。普段は3歳から小学高学年向きですが、その日は中学生向きにアレンジをして、一つ一つのお店をアクティブって彼らが呼んでいたのですが、英語のアクティビティを30ぐらい入れて、全て英語で会話をしながら職業体験をするコーナーでした。

弁護士、保育士、あるいはフォトフレームで何かを作成したり、鉄道事業者など多くのことが体験できます。その中で広場の様なコーナーもあり、これから何になるのかと職業がずらりと書いてありました。ある大学の先生が言っていました、「いまの子供たちが就職する頃には、もう半分の仕事なくなる」とか、あるいは「半分が今ない仕事に就く」などの話があります。今、キャリア教育に力を入れていますが、子供に職業体験をさせるだけでは足りず、その仕事が無くなっていく可能性がある中、そういう中から新しい道を切り開いていくために何が必要かを掴ませること、ここがポイントで非常によく練れたプログラムだと感じました。

新年度予算の中に、実はキャリア教育の予算をつけております。例えば学校に、今のキッズニアもそうですが、いろいろなプログラムに参加した場合、その一部を支援しようという予算を立てました。全体的には約1,300万円の予算だったと思いますが、これがどのくらい成果を發揮できるのかを考えています。

この大綱を実現するためには、いろんなアイデアがこれからも必要になりますので、先生方のご意見を聞かせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

村上青少年教育担当係長

今、教育長からご説明させていただきましたが、これをご覧いただき、ここはどのようになっているかなど、質問等もあるかと思しますのでご感想、ご意見のある方はよろしくお願いたします。

定野教育長

この場でもいろいろなご意見いただきましたように、直接教育総合会議に出ていただいて、いろいろな話もしていただきました。それがこのサイクルなど多くのことにつながっております。本当にありがとうございました。

明石議長

今の教育長の話聞き、私は約3、4年前に、欧米と韓国の放課後の施策を調べていました。ドイツとフランス、イギリスには共通点があり、ドイツは15%がトルコなどを含めて外国の方が多い。その外国の方にいかに就学させるかを考え、放課後でドイツ語を教えたりしながら放課後も勉強をしている。

移民や貧困対策として、生活リズムを作ってあげるのがイギリスの考え方です。アメリカは、セサミストリートをターゲットに、どのように学習力を高めていくかという、チームを作って週3回ぐらい特別講師が入り、パソコンやゲームを使って算数に力点をおいて教えている。学習させないと学力がつかない。また、算数や数学が弱いと言います。そこでインターネットを使ったゲームで、幼児期から児童期初期まで別の講座で行っていると言います。

この取り組みは足立区も参考になる。足立区バージョンの放課後の学習支援というのもアメリカの例を参考に展開できると思う。韓国も日本と同じく、とても教育格差があります。富裕層はみんな家庭教師と塾に行かせるが、そうでない家庭では行かせられず、ますます格差は広がると言います。そこで、放課後は学校の延長をするようにし、3時から日本のベネッセや公文、音楽、バイオリンなど、お稽古から塾まで全て学校が用意しています。放課後に全部の別組織が登録を受けて、場所は学校ですが、仕組みとしては社会教育課のようところが登録を受けて行っています。それは、正に日本と違うところです。日本は塾やお稽古がありますが、韓国では学校の中で、放課後の時間に全部登録制で行っています。これも一つ足立区の取り組みに参考になるかと思います。

要するに、今後強調される貧困対策は、早めの対処と丁寧な対応が切れ目となるので、3時半以降にどうするかが課題と思う。8時半から3時半まで日本の学校教育は、同じ質を提供するため差が生まれにくい放課後の過ごし方に差が出やすい。それを私はまず、当面土曜日に限定して予算化したらどうかと考える。土曜日の過ごし方に家庭の格差が出るため、親子でいろいろな体験ができる層、自宅で閉じこもっている層が出てきて、その試験的な土曜学習のモデルを小学校や幼児でもやっていき、効果が出ればそれを月曜から金曜日まで実施するのはどうか。すぐに予算化は難しいと思うので、このような取り組みと貧困での教育格差が学校にもメッセージとして送り、また学校だけをお願いせず学校で基礎教育を学ばせ、放課後にフォローすると良いと思う。

定野教育長

今、先生からお話がありました放課後の過ごし方について、一部まだ欠けているところがありますが、現在は放課後子ども教室がほぼ全学校にできました。今回もプラスワンということで体験型のプログラムを入れようと考えております。

その他にも図書館を利用したり、いくつかの学びも支援でき、先生がおっしゃったところは、ほぼできるのですが、問題はその土曜日や長期の夏休みなどの期間にどうするのかというのも課題です。一つ二つ、取り組んでいるところもあるので、モデルをつくっていききたいと思っています。

また、中学校の問題で部活が熱心だというのは良いが、帰宅もせずにぶらぶらしている生徒をどうするのかという問題が中学生の居場所づくり。福祉では、自宅に帰らない子供たちにおやつを出すなど食事の提供も始めています。現在は一ヶ所ですが登録制をとっており、今後はあと2か所増やそうと考えております。さらに、インターネットを使った学習は、ある学校で取り組んでおりますが、一つ分かったことは勉強したいと思う子どもが集まってきてまじめに取り組んでいます。問題なのは、それも嫌だといって来ない子どもです。意欲のある子は救える手立てはたくさんありますが、意欲がないとだめです。ここをどのように解決するかが問題になっています。

また、足立区では移民という話はありませんが、土曜日に第四中学校の夜間学級の卒業式に行って来ましたが、6割は韓国、中国を中心に外国の生徒です。以前よりは日本語を話せるようになっていますが、小中学校のクラスに外国の子どもがいるところもあり、日本語などコミュニケーションをサポートする職員をつけている実情があります。

明石議長

千葉市についてですが中学校は54校あり、6校の地域だけ限定して放課後の中学生の学習支援を本気でやります。教育長おっしゃったように、一番の課題は来てほしい方が来ないことです。ただ来いと言っても来ない。小学校レベルの問題のどこでつまづいたかを把握して教えていく必要がある。それを民間に委託していかなければならないと思う。

幼児期、小学校時代の学習状況を押さえておかないといけない。特に数学・理科などの理数系の科目に限定したほうがよい。うちの短期大学で小学校教員養成課程が、定員25名のところ約20名入っています。4月に高校3年間の英語、数学、国語科のテストをしてクラス分けをしますが、入学して1年半後の7月に教員採用試験1次があります。

1次試験での不合格は数学と理科が苦手な生徒です。国語、社会科は何とか合格できる。結局1次試験が受からないと2次試験の面接でも結果が出ない。それで我々は、高校の数学の先生に来てもらい、3日間、18歳の時の試験状況を見て何につまづいているか、教員採用試験は、どのような問題が出るのか等具体的に取り組んでいます。

定野教育長

私どもも学校の先生にお任せするのではなく、小学校3、4年生は確か理科の講師に来てもらい算数等を中心に補習授業をやっています。本来学校でやるべきものなので、学校で出来るようになったら手を引くようにしています。最初は全校に入れましたが、今は3

分の1くらいになりました。中学2年生も数学を中心に民間の塾の先生を招いて夏休みの補習をやります。さらに、やる気はあるけれども塾に通えない、経済的に厳しいお子さんについては、100人限定で塾を開いて、夏・冬に集中講座もやっています。そこでは4クラスに分けて英才教育を受けさせています。これは所得制限があり、普通なら塾に行くお金がないから行けないと言っている。そこまでやらないといけないということなので、まだまだ先生からヒントをいただいて、いろんなことやりたいと思っています。

伊藤部長

放課後の使い方は全く私も同感で、指導者をどのように確保していくかについて、明石先生からご意見をいただきました。地域の方が、例えばやる気のない子を見つけ出し、掘り起こし語りかけることは地域の方でもできることです。実際に教えるのであれば民間委託でもできます。それは教員が忙しいという時の配慮であったり改善策にもなるであろうと思います。

明石議長

去年、スウェーデンがその問題に気づいています。放課後教室がありますが、教員ではなく、短大以上の資格を持った方を養成します。要するに、仕組みや学校教育と方向性が違い、放課後に教えてくれる方を2年コースで育成しています。

厚労省も3年後に児童クラブとしますが、学童も保育士、教員資格、学童を5年以上経験しないとイケないとしています。研修については、都道府県がライフライン作り、市区町村が支援し、統括コーディネーターとコーディネーターを育成するのです。

このような学校と社会教育をつなぐ人が必要です。要するに、地域、学校協働本部というのは、助け合う協働本部を作るのです。本当は、法律で行う国会が変えるはずが、参議院選挙があるので来年になりますが、アクションプランで補助金を出していきます。

中教審で最も課題は、政令都市など県あたりで1名、全体をまとめるコーディネーターや中学高校で束ねるコーディネーターについて、統括コーディネーターをどうやって育成するのかということです。

今はボランティアに任せているので、やる気だけでいいのですが、それだけではうまくいかないというのが次のテーマです。それと今検討しているのが、社教主事の資格を変えていくことです。彼らは優秀だがデスクワークが多い。教育委員会では通用するが、市長部局、県知事部局行った時に使いものにならないという批判があります。財務や企画、教育など、そちらだけに重きを置いて、ワークショップをたくさんやりましょうという社教主事資格を変えます。情報提供ですがそういう動きが今あります。

村上青少年教育担当係長

明石先生、情報提供していただきありがとうございます。ちょうど今、話も出ましたので、これも含めてご意見をお願いいたします。

成田委員

お久しぶりです。卒業式の話が出たので、私も日体大からは入学式、卒業式に招待されますので行くのですが、去年4月の入学式ではスキージャンプの高梨さんが在校生を代表していい挨拶をしていました。卒業生代表としては体操競技の鶴見虹子さんが、滔々と挨拶していました。あのスピーチ力はどこで養われてくるのか、気持ちのいい入学式・卒業式であったと思いました。

私が申し上げたいのは、本日の配布資料の一番上にある、求められる地域に開かれた教育課程についてです。昨年来、退職された校長について、校長先生は居座るようだけれども、退職された教員の方は足立区に居座る率が少ないのではないかと、そんなことを聞いていました。地域に開かれた教育課程、ご承知のとおり学校と地域の連携、協働の在り方と、今後の推進方策について、これは中教審の今年の12月の答申です。

問題は、教育改革等の動向で、抑えるべき動向は、学習指導要領の改訂とチームとしての学校の在り方の検討とあります。私は、このことが定野教育長の推進していらっしゃる足立区のこれからの教育の在り方の一つに関わってくると思っています。

学習指導要領の改訂については、ご承知のとおりいろいろ書いてあります。教育課程の実施にあたっては、地域の人的物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったり、学校教育を学校内に閉じずにその目指すところを社会と共有、連携しながら実現させること。このような状況を踏まえ、今後学校は社会に開かれた教育課程の実現に向かっていくべきです。そういうことで、学習指導要領の改訂は、学校が校内に閉じ込めずに、地域に出ていかなければいけないと思っております。

また、チームとしても学校の在り方の検討で課題解決に取り組むことが必要とされています。また、学校と地域の連携を推進するため、学校内において地域との連携、推進の中核を担う教職員を、地域連携担当教職員（仮称）、として法令上明確化することを検討するとされています。

例えば、学校給食については栄養教員が制度化されました。学校図書館については、司書教員が制度化されました。つまり、こういう形で出てくることは、平成30年最初の答申が出てきた時に、指導要領では、この地域連携担当教職員が、いよいよ法令化されていくという覚悟で、このような見通しの上でこれから作業をしていくべきと思います。

そして、平成27年12月の委員会答申では、学校は「チーム学校」の考え方のもと、学校現場以外での様々な専門性をもつ地域の人々と効果的に連携しつつ、教員とこれらの者がチームを組んで組織的に諸課題に対応するとともに、保護者や地域の力を学校運営に活かしていくことが必要であること。また、新たな教育的課題に対応していくためには、学校が地域づくりの中核を担うという意識を持ち、学校教育と社会教育の連携の視点から学校と地域の連携、協働を円滑に行うための資質、それをこれからの教員に養成していかなければいけないということです。

同時に申し上げたいのは、今月の3日と4日に上野公園の国立博物館の道路一つ隔てたところに3階建の建物で社会教育実践研究センターがあります。そこで3月3日、4日の2日間、地域協力を高めるボランティアセミナーが開催されました。そこでは大変熱心な討論があり、全国から百二、三十人集まっていたと思います。

東京からは私を含め出席は4人でした。そこで私が申し上げたいのは、北海道士別から旭川、あるいは岩手の鹿沼、大館。そして秋田、新潟、塩尻、狭山、あるいは杉並区、三鷹市、横浜市、奈良市、九州の宮崎、熊本まで。その中から見ていったものをリストアップしたのが士別以下のものになります。（資料説明）

例えば横浜市の場合の例を見ると、中学校を中心に小学校2校、中学校1校がチームを組んでメインが災害時の避難でした。しかし、ここに発表されている士別以下、それぞれの学校は新しくもあるでしょうが、各学校のある一部にコミュニティエリアをつくってありました。地域の人たちが自由にそこ出入りできるようになっていますが、その点、村上先生、足立区ではどうですか。

村上青少年教育担当係長

横浜は、市全体でその取り組みを行っていますので、そういう意味では横浜のようにはできていないです。

成田委員

横浜の例を見ますと、あるところでは、横浜の東山田中学校はコミュニティカレンダーという1年間のカレンダーを作っています。北山田小学校のコミュニティハウスは、小中学校や既存施設を活用した施設です。休館日は火曜と木曜日、年末年始で身近な生涯学習、地域活動等の場として、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の方に使われています。保育室、和室、ミーティングサロンなどがあり、地域活動等に利用できます。

このようなコミュニティハウス、あるいは地区センター、地区ケアプラザなど様々な試みを横浜では行っています。特に、横浜市内において各中学校区単位に設置され、学校、家庭、地域が連携し、児童、生徒の問題行動等の防止、健全育成を図るためにこれらの活動をしていると紙上発表、口頭発表で経験したのが今月の3日、4日でした。

いずれにしても、足立区のこれからの大切な教育大綱を実現していく際にこのようなことも視野にいれていただきたい。恐らく平成30年には学習指導要領も出ると思います。この辺を踏まえたくえでこれからの教育が動き出す。それらが出てからどうするかではなく、今から少しずつ情報収集なさっていったらどうかと思います。以上です。

明石議長

成田先生も言われておりましたが、地域連携担当教職員、これが一番目玉です。法律を変えようと思っても変えられないので、まず今年は、国会の予算が通りましたので、地域連携担当教職員が手を挙げれば予算はつくのです。それが全てではありませんが。

今、生涯学習局でお願いしているのが、この教職員が、社教主事の資格を持った方が望ましいという一言を入れてほしいということです。学校しか知らない人がいても困ります。したがって、先ほど教育長のおっしゃったように、民間の方も同様にやっています。そのようなことも理解できないと困るわけです。地域だけではなく、企業との連携もできる人を連れてこない結局円滑に回っていかないということ。そういう意味では非常に大事な事と考えています。

一つは、チーム学校の中で養護教諭はいますが、看護師の資格を持った方も入れようという考えです。それから、部活動の指導者も専門家に依頼しましょうという考えもあります。従って、当然スクールソーシャルワーカーも入れるということです。

消防庁と連携して防災担当の方も入れたらどうかなど、要するにこれまでの教員と事務職と用務員さんだけではなくて、みんなが学校を起点として、足立区を元気にすることが目的なので、ぜひ私は、足立区は地域連携担当教職員を定数化した時は、通り一遍での連携ではだめだということを出していただけると良いと思っています。

定野教育長

私どもの学校には、開かれた学校づくり協議会があります。そこが地域とのパイプ役になっております。その発展形がコミュニティスクールで、区内小中学校の全106校のうち、11校を指定しております。コミュニティスクールにならなくても、開かれた学校づくり協議会でいろいろなことをやっており、土曜、日曜もやっているところもあれば、学生をよんで実施したりなど、特殊な例かもしれませんがやっているところもある。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとか、防災の関係、栄養士などを入れれば、チーム学校というのができるだろうと思います。

もう一つ、今の地域連携担当教職員ですが、今、一番忙しい副校長の仕事になっています。そういった意味では、こういう担当教職員ができると非常にありがたいと思いました。今大学には地域連携担当教職員がいて、室もつくってあり、例えば産学とか地域や大学もそうやっていかないと子供も集まらず、地域に支えられないと大学も運営できないということが分かっています。現在、小中学校はそのような状況であるということです。非常に良いお話をいただいたので、頑張りたいと思います。

明石議長

次の視点は、やはり早寝早起き朝ごはん、朝読書、を提案していきたい。食育振興法ができて10年、文部科学省の生涯学習政策局が早寝早起き朝ごはんなど、食育と読書活動が始まって10年が経ちます。足立区は学校給食についてピカイチなので、なぜそれを家庭まで支援しないのだろうかと思うが、給食レシピを活用してもらえよう工夫はしているがなかなか難しい。やはり社会教育の発想でいかないと。

もう一つ、読書活動というのは、今の私が行っている青少年教育振興機構は、俗にいうオリセンで準絵本専門士をつくりたいのです。絵本専門士とは、例えば定員100名のところ、1,000人の方が講座を受けたいと手をあげてきます。そのぐらい地域のボランティアによる絵本の読み聞かせのニーズが高いのです。そのような講座に参加したい人が足立区にもいらっしゃるのので、保育所、幼稚園、小学校の低学年などに限定し、そこで家庭では難しいが絵本は楽しいということを発見させる。特に私は、2～3歳からでもよいが、小学校2年生までに徹底的に絵本の読み聞かせをやる。そうやって知的なことを学ばせていかないといけない。

定野教育長

「はじめてえほん」という取り組みがあり、子どもの検診に来た時、お母さんに本を渡していくという取り組みを始めています。

明石議長

夜飲み行っても帰ってすぐに子どもが寝る前に本を読んであげないといけない。しかし、それは正直無理です。保育所、幼稚園、学校と連携をして、放課後10分間でもいいから読み聞かせに行っていただく。そうすればみんなが楽しみ、そこから「お母さん読んで」と子供に言わせるようになるまでにしていくべきと思います。

定野教育長

小学校は、図書館支援員を入れて、子供たちにボランティアの方が読み聞かせをするなどの取り組みは行っています。

明石議長

アメリカのデータを見ても、幼児期の初期投資をやらないといけない。本当に重点的に取り組むべき。

定野教育長

投資効果が一番高いのが幼児期であり、大人になってからお金をかけてもだめだということも理解しています。

明石議長

ここは思い切って国財でやるところと思います。

伊藤部長

親も、このような読み聞かせをしていく時間的な余裕がなく忙しい。精神的にも余裕がないという方は、やはり保育園、あるいは学校での対応が非常に大きな効果があります。

一方、家庭できちんと取り組んでもらわなければいけないが、足立区の場合は、そうした貧困層、心にも経済的にも余裕がないところに学校や保育園、幼稚園など、どこかで救っていけるのかということが大切です。

定野教育長

千葉市の中学校の就学援助率が27%とのお話がありましたが、中学校の就学援助率は、41%です。

明石議長

千葉市の場合は、56校中27%以上が6校です。足立区では、一層の支援が必要であると思います。足立区については、起死回生まではいかないが自転車の乗り方を徹底して、記

者会見で報道し足立区の小中学生、高校生の自転車の乗り方は最高であり、スマートフォンを操作しながら乗らない。このようなプラス的なことをあげていかないと。足立区は車のナンバーから怖いイメージがあると言われていたことでもあるので、足立区に行くと自転車事故がないと言われるような取り組み、その背景には幼児期、小中高校まで自転車の乗り方講習をやっていますと言える取り組みを行うのはどうか。

千葉市では、19歳の大学生が自転車に乗りながらスマートフォンを使っておばあちゃんを引いてしまい、3年の実刑、執行猶予1年になりました。そういう意味では、足立区は交通マナーの一つとして、スマホ自転車を全員やめるという区民運動を徹底的に絞って取り組んでみたらどうか。

定野教育長

足立区の犯罪は徐々に減ってきています。ところが問題なのは、今先生のおっしゃった規範意識で、未だに忘れないのが道路交通法改正になり、自転車を漕ぎながら傘をさしていたりスマホを操作すると厳罰に処すと改正されましたが、その際に、テレビで資料映像が流れたときそこが足立区でした。

雨の日に傘をさし自転車に乗り、さらに赤信号を無視して行ってしまう。このようなところで規範意識の低下を感じます。そこを逆転の発想でマナーを徹底する。小学校では自転車の乗り方教室をやっており免許証も発行したりしています。しかし、徐々に中学生くらいになってくるとマナーが守れていない。実は大人も悪いのです。僕もよく見ますが子供がきちんと信号を待っているのに、親が先に赤信号を無視して渡り、「はい、何とかちゃんおいで」と、これでは子どもも迷います。親にもついてかなければならない、しかし交通ルールも守らなければならない。実際に親が傘さし運転やスマホを操作しながら運転しているので、親の教育を徹底しないといけないと思います。

明石議長

そのほうが一般の方も分かりやすい。足立も変わりつつあると思ってもらえます。

定野教育長

確かに、そのように思います。

明石議長

いろいろご意見をいただき、ありがとうございます。

村上青少年教育担当係長

時間の都合上、27年度の取り組みに入らせていただきたいと思います。

これまで出た意見の再確認、最後のまとめについて広瀬係長にまとめていただいた部分をご説明いたします。

広瀬係長

お手元のホチキス留めの資料にまとめさせていただきました。これにつきましては、少しお時間いただき報告書という形で、表現できればと考えております。特に先生方からポイントを絞ったご提案をいただいておりますので、それぞれの事業にどのように反映できるか、あるいは何が必要かというところまで掘り下げて、現在取り組んでいる事業の参考にさせていただきたいと考えております。

本日は、本年度の成果についてこのお時間だけでまとめることは難しいと思いますが、先生方から総評・講評をいただけると事務局として大変ありがたいと思います。もしできれば先生方から一言ずつ、今年度の取り組み、総評といたしましてご意見等賜ればありがたく思っております。また、補足でも結構でございます。よろしくお願いいたします。

村上青少年教育担当係長

それでは、事務局でまとめたことに対しまして、足りないこと、また、事務局の受け止め方が違うなどもあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

成田委員

足立区に今後も住みたいかとの質問に以前は86%だったが、それが70数パーセントまでに減ってしまった。私は世田谷に住んでいますが、世田谷で同様の質問を行ったらどのような結果が出るのか分からないが、足立区に愛着を持っている人が少ないというのはものの、私は子供たち、あるいは先生方のいいところ、足立区の持っているいいところにもっと目を向けて、それに焦点を合わせていくのも一つであると思う。

例えば私が昔小学校の教員をやっていた時、2つのタイプの校長先生がいました。女性の校長先生は、「成田先生、何あの黒板の字は。乱雑で。もっと子供の前で丁寧に書きなさい。でも、あなたのいいところは健康だから元気でいいわね」と言われました。このように言われると、黒板の板書も直そうとする気はなくなっていました。しかし、その次に仕えた男の校長先生は、「成田さん、元気でいいな。子供たちも一生懸命ついてくるぞ。保護者の評判もいい。成田さん、頼むから板書だけは丁寧にやってくれ」そう言われると、「じゃあ、やってやろう」という気になりました。

つまり、足立区の教育委員会として大きな仕事をしていく時に、マイナスの面もあるが特に教育長がよくおっしゃる中学・高校生の居場所づくり、そういうのをどのように取り組んで行くかを考えたとき、マイナスの面もいろいろあるがマイナスの面はマイナスの面として受け止めながら、明石先生のおっしゃっていた足立区のいいところとして千本桜の堤も実現したらどうだと。そういう夢を持って良いところをさらに伸ばしていくべきであり、これからの行政にも問われていくのではないかとそのような感想を持ちました。

定野教育長

千本桜はしっかりと実現します。千本桜は1本3万円で区民の人に公募かけるのですが、不思議とあつという間に募集が埋まるのです。やはり桜が好きで愛着があるのだと思います。このようなプラス面というのは、確かに先生のおっしゃるとおり伸ばして行く必要が

あります。

村上青少年教育担当係長

ありがとうございます。続いて、28年度協議テーマの進め方、任期についてでございますが、任期について広瀬係長から申し上げます。

広瀬係長

2年任期になりますので、今年の12月まで、先生方にはご尽力賜ればありがたいと考えております。

村上青少年教育担当係長

28年度の協議の進め方ですが、27年度、再開してどのような形で進められるのかという不安の中でスタートしましたが、教育大綱に関しても先生方にいろいろご意見を頂戴し、今後、28年度の12月までの間、3人の先生方に社会教育委員として関わっていただいて、議論のまとめをしっかりと作っていきたいと考えております。

事務局としては、今まで、特に青少年課としてこのような課題を持っていること、そして先生方からいただいたご意見も踏まえまして、地域の教育力の向上、青少年の育成に向けて体験活動が中心になるかと思えます。

さらに、どのように青少年を育んでいくのか考えていくことが、先ほど出ました学校との連携につながると思います。学校が地域へ開いていく時、やはり地域側の受け皿を社会教育としてしっかり整備していかないと、学校がいくら地域と共になっても実現できません。それをやるためには、社会教育もしっかりと体制を作っていくことが大事だと思います。

青少年課としては、そこが28年度の課題として取り組んでいきたいと思っておりますが、そこに関してアドバイスをいただき、先ほど明石先生から条例をつくることやプロジェクトという話がありましたが、それを進める基本となる考え方や体制づくりを進めていきたいと思っております。その上で、今までの協議を踏まえると、体験活動の場をどのように提供して、そして社会力や生活力をどのように身につけていくかは、それを支える人の問題です。特に足立区の場合、子供会の50周年の式典を行いまして、青少年団体がずっと活動してきていますが、地域課題などにより弱体化は否めないところです。

そういった青少年団体、あるいは地域、青少年に対する地区委員会もかなり曲がり角に来ていると思います。そのような地域をどのように建て直していくのかを考えていく必要があります。

青少年課としては、先生方からこのような部分に、もう少し加えて取り組む必要があるというような別の視点があれば、さらにご意見をいただき、28年度の協議テーマ、進め方に関して考えていきたいと思えます。

定野教育長

明石先生からロードマップについてのお話がありましたが、非常に重要だと思っていま

す。計画を作る以上は目標を明確にし、着実にそれを実行する必要がある、ロードマップづくりは早急に取り組みたいと思います。

そのためには、今お話に出てきた家庭だけではなく、学校と放課後は切っても切り離せない関係にあるため、次回から議論する際に、教育政策課や放課後子ども教室を担当している生涯学習振興公社などを加えて議論をしてみたいはいかがでしょうか。

村上青少年教育担当係長

テーマに合わせた所管を加えるということでしょうか。

定野教育長

議論をしていると重要な部分は概ね私が話すことになりませんが、さらに深く議論していく具体的な話ができるため、教育政策課や生涯学習振興公社などの係長や担当職員を参加させることについてはいかがでしょうか。先生方の意見を間接的ではなく、直接的に伝えることは、とても良いことと思います。

寺島課長

28年度、この教育大綱に基づく教育振興計画を作り、これを実現していくための具体的な計画として、現場の取り組みに対し落とし込んでいく、参考としていく必要があると思います。家庭教育の話、放課後の話など体系に合わせて取り組んでいくという意味で、各所管課から出席してもらうことも必要であると思います。

定野教育長

先生方から聞いた話をここから伝えるのもよいが、直接聞いてもらったほうがより伝わり非常にいいと思う。

伊藤部長

今日は成田先生から地域との連携を重視した学校教育課程という話をいただきました。答申ができるのは平成30年ですか。

定野教育長

チーム学校については、昨年度末にだされたと思います。

明石議長

地域に開かれた教育課程は、新しく指導要領つくる時に2年後でもできます。

伊藤部長

それに備えて先回りをして、足立区として準備を進めていき、そのロードマップが必要なのではないかと思います。これだけの情報をいただきましたので、後手後手に回らないようにし、この中身を足立区でどのように実現していくか検討し、その方針が出た時に引

き受ける体制ができている形で取り組みたいと思います。

明石議長

教育長おっしゃったように、教育政策課など関係部局などと協働してチームを作り、エビデンスを残すように取り組んでいったらいいと思います。お父さんお母さんの一番変わるきっかけは、子供が変わったということを数字で示すことだと思います。

数字で示すことで少し動いてみようかと思い、また、そのようにしないとお説教してもだめだという感じがしています。すると、そのエビデンスをどう残すかということが課題になる。例えば、中学校で体力テストでは東京都が一番低いです。ボール投げや握力は都市部が低い。都の教育委員会は本気でやっているわけですが、足立区の保健体育は何をやっているのだと思われてしまいます。それで休み時間を60分に増やしました。

しかし、一日の運動目標が1日に1万5,000歩に対して、頑張っても1万1,000歩しか歩けない。なぜ1万5,000歩のガイドラインに到達しなかったという分析を、新聞でも聞いたことがない。足立区で、そこを達成した地域はどこかなど、達成している学区と標準型の学区、未達成の学区など、3つの層として抽出しておき測定をして、アクションプランを加えていき、どのような効果があるかというエビデンスを残さないと行政のために予算化できないという感じがしています。

定野教育長

今、ここに数字がないのですが体力推進校を指定して取り組んでいる学校があります。数字が上がってきていると思うので確認しておきます。何をやっているかという、休み時間に3分間走ること、校庭を回ることや学年でいろんなことをやっていますが、それで確実に体力向上につながっています。今回もビューティフルスクールでそこを応援しようと思います。やっぱりエビデンスを残すことが大事だと思います。

明石議長

体力向上の取り組みを行うことで給食残さない子どもや、けがの率が減ってくること、冬でも風邪をひかないなど、体育の測定だけでは測れない間接的な高揚が見えてくる。また、基礎体力がないと学習に集中できないと私は思っています。

成田委員

それを得意としているのが、先生が理事をされているオリセンです。早寝早起き朝ごはんでも色々と調査のデータを出されて説得力もある。オリセンの田中壮一郎先生の説明が私は上手だと思っています。やはり何か見る時には数字、データが必要だと思います。

村上青少年教育担当係長

そろそろ、お時間でございます。今いただいたご意見をまとめさせていただき、取り組みを進めていきたいと思っています。

司会:事務局寺島課長

本日は、先生方からいろいろとお話をいただきました。28年度に向け、教育長からもロードマップづくりを進めたいとお話がありましたので、関係所管を交えながら次回以降進めていきたいと思っております。次回の会議日程について広瀬係長からご案内申し上げます。

広瀬係長

今年度、本日の会議を含め合計8回の会議を開催させていただきました。来年度もできれば、この回数、8回程度の開催を予定させていただきたいと考えています。先生方には大変お忙しい中、お時間つくるのもなかなか難しいと承知しておりますが、8回の開催となりますと月1回の開催となります。

計画通りに進められるかは分かりませんが、次回の開催について、いつものような調整か、もしくは毎月第2、あるいは第3何曜日の何時からというように決めてしまったほうがよろしいのか、先生方のご意見賜ればと思います。いかがでしょうか。

明石議長

決めてくれていたほうがありがたい。

定野教育長

年間スケジュールがあったほうがいいです。何曜日というのはなかなか難しいから、年間スケジュールは入れておいていただくほうがいいです。

広瀬係長

かしこまりました。それでは改めて先生方に、年間スケジュールのご相談をさせていただきます。

定野教育長

今までの先生方のお話を参考に、引き続き頑張りますのでよろしくお願いします。

司会:事務局寺島課長

以上で本日終了になります。最後に、子ども家庭部長の伊藤からご挨拶申し上げます。

伊藤部長

1年間どうもありがとうございました。

子供の数が少なくなっているなど、青少年団体の活動が弱体化している中で、社会教育そのものも少しずつ注目を集めなくなっていることも感じてきたところです。その中で、やはり地域一帯の中での教育、いわゆる社会教育、あるいは学校との連携が、非常に重要なものと感じています。

学校を変えていくにも社会を変えていくにも、社会教育という概念の中で、どのように

していくかということは、非常に重要なことだということが、私がこの8回の中で勉強させていただいたことです。改めてこれを実現していくのは来年度になります。引き続き、この後は、具体的なお相談もさせていただきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いをいたします。ありがとうございました。

司会:事務局寺島課長

以上を持ちまして終了させていただきます。また、次回の開催につきましては、相談をさせていただきます。本日はありがとうございました。